

三菱重工 設備用パッケージエアコン 室内機据付説明書

本説明書は、設備用室内機の据付方法を記載してあります。
室外機の据付方法、及び冷媒配管工事方法は室外機付属の説明書をご覧ください。
又、故障診断は室内機の結線銘板をごらんください。

安全上のご注意

- 据付工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は【△警告】、【△注意】に区分していますが、誤った据付をした時に、死亡や重傷などの重大な結果に結び付く可能性が大きいものを特に【△警告】の欄にまとめて記載しています。しかし、【△注意】の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。【○】 絶対に行わない 【①②】 必ず指示に従い行う
- 据付工事が完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書によって、「安全上のご注意」や正しい使用方法、お手入れの仕方（エアフィルタの清掃、運転操作の仕方、温度調節の方法等）をお客様にご指導ください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方にお渡しいたごう依頼してください。

△ 警告

- ① ●据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付に不備があると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるけが等の原因になります。
- 据付は、販売店又は専門業者に依頼する。
●自分で据付工事をすると、水漏れや感電、火災、ユニット落下によるけが等の原因になります。
●据付時やサービス時など、ユニット内の作業を行う場合は電源を切ってから行う。
●感電の原因になります。
●部屋へ据付する場合は、万一冷媒が漏れたとき限界温度を超えない対策をする。
●限界温度を超えない対策については、販売店と相談して据付してください。
●冷媒ガスが漏れた時、室内の冷媒濃度が限界濃度（0.3kg/m³）を超える恐れがある場合は、窒息防止のため網戸の開口部やガス漏れ検知装置等に連動する機械を使用する必要があります。万一、冷媒が漏洩し限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。
- 据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。
●強度が不足している場合は、ユニットの落下、転倒などにより、けがの原因になります。
●設置などの強風、地震、地震による揺れ、所定の据付工事を要する。
●据付に不備があると、配管に不備が生じ、感電の原因になります。
●ユニット搬入する際、重量に適合したロープをユニット所定位置に据付けて行う。
●搬入方法に不備があるとユニットが落下し、死亡や重傷の原因になります。
- 設置工事業者は必ず付属品および指定品を使用する。
●当社指定品を使用しないと、ユニットの落下、水漏れや火災、感電、冷媒漏れ、能力不足、制御不良などの原因になります。
●電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内装規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
●電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
●配線は所定のケーブルを使用し確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する。
●配線や固定に不備があると、感電、火災、感電の原因になります。
●電源線接続にははごとの付属品、詰まり、がたつきがないことを確認し、確実に接続する。
●はごの付属品、詰まり、がたつきがあると、火災の原因になります。
- 配線は、まさりがないように整理し、室外機・室内機のコイルカバー（リッド、サービスパネル）を確実に取り付ける。
取り付けが不完全な場合は、発熱、火災や感電の原因になります。
- 据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取り付ける。
●冷媒配管が取り付けられていないと、操作弁開放時に冷媒機を運転すると急激な冷媒漏れによる凍傷、けがの原因になります。また、空気などを吸引し、冷凍サイクル内の異常高圧になり、破裂、けが等の原因になります。
- 冷媒配管工事、気密試験及び真空引きが完了するまでは操作弁（ガス・液相用）を閉鎖する。
●急激な冷媒漏れによる凍傷、けがの原因になります。また、作業中に冷媒が漏れた場合は配管をうけ付け等、作業を中断し、換気をする。冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 配管、フレアナット、工具はR410A専用のものを使用する。
●既存（R410A用以外）の部品を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂、けが等の重大な事故が発生する原因になります。
- フレアナットは、トルクレンチを用いて指定トルクで締め付けを行う。
●フレアナットの締め付けすぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ、冷媒が漏洩します。フレア部の腐み、破損が発生した場合、冷媒が漏洩して酸欠事故の原因になります。
- ポンタ管作業では、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する。
●圧縮機を運転したまま操作弁開放状態で冷媒配管をはずすと急激な冷媒漏れによる凍傷、けがの原因になります。また、圧縮機が空気などを吸引し、冷凍サイクル内の異常高圧になり、破裂、けが等の原因になります。
- 作業中に冷媒が漏れた場合は、窒息防止のため、通路は恒気圧ハンコ、手すり等を、また、室外機の周囲にはフェンス、手すり等を設置する。
●冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付工事が完了後、冷媒が漏れていないことを確認する。
●冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロ等の火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- ② ●冷媒配管はイオウ系ガス等、有害ガスの発生する排水溝に直接入れない。
●室内に有害ガスが入る恐れがあります。また、室内機を腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。
- エアコンの設置や移動の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒（R410A）以外の空気を混入しない。
●空気が混入すると冷凍サイクル内の異常高圧になり、破裂、けが等の原因になります。

△ 注意

- ① ●空気清浄機、加湿器、暖房用電気ヒーターなどの別売品は、必ず当社指定の製品を使用する。
●取付工事は販売店または専門業者に依頼する。自分で工事すると、水漏れ、感電、火災の原因になります。
- 室外機・室内機は、小動物のすみかにならないよう設置し、設置しない。
●小動物が侵入し、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になります。また、お客様に周辺をきれいに保つこともお願いしてください。
- 高熱、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保する。
●スペースが不足する場合は、設置場所かの高さを上げる原因になります。
●室外機を屋上あるいは高所に設置する場合は、転落防止のため、通路は恒気圧ハンコ、手すり等を、また、室外機の周囲にはフェンス、手すり等を設置する。
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付に不備があると、異常振動・騒音増大の原因になります。
- 冷媒配管工事が完了後は異常振動・騒音増大の原因になります。
●万一、狭い部屋に冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。
- 冷媒配管の防露断熱工事を行う。
●冷媒配管工事に不備があると、水漏れ、露たれし、家財等を濡らす原因になります。
●電源遮断器を取り付ける。
●電源遮断器が取り付けられていないと火災や感電の原因になります。
- 配線は、据付説明書に従って確実に施工するように、結露が生じないように保温する。
●不備があると、水漏れ、家財等を濡らす原因になります。
- 据付・点検・修理時に取り外したパネルは安定した場所に置く。
●不安定な場所に置くこと、落下・転倒などによる故障の原因になります。
- エアコンは除湿モード（ドライ）を稼働して使用する。
●除湿モードで運転すると、ファンに巻き込まれによるけがの原因になります。
- 梱包材の処理は確実に行う。
●梱包材は、2つ等の金具のみは、木材を使用している限り、故障の原因とする恐れがあります。
- 正しい容量のブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器）B種にユース）配線遮断器を使用する。
●大きな容量のブレーカを使用すると、故障や火災の原因となります。
- 電源を切った状態で電気工事を行う。
●電源が入ったままで電気工事を行うと、感電、故障や動作不良の原因になります。

- ② ●アース（接地）を確実に行う。
アース線がガス管、水道管、排水管、電話や他のアース線と接続しない。ガス管にアースすると、ガス漏れの際に爆発、引火の可能性があり、アース（接地）が不確実な場合は、故障や漏電のとき火災や感電の原因になります。

- ③ ●包装用の梱包材は、破損しない。
●手で梱包用の木材を得ない。
●次の場所への据付は避ける。
・可燃性ガスの漏れや燃焼の恐れのある場所や引火物のある場所
・可燃性ガスの漏れや燃焼の恐れ、火災の恐れのある場所やカーボン繊維が浮遊する場所では火災の原因になります。
・積累系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ等、機器に影響する物質が発生する場所
・熱交換器の腐食、プラスチック部品の破損の原因になります。
・油の飛散や蒸気が多い場所（調理場、機械工場等）
・高周波が発生する機械を使用する場所
・海浜地区等塩分が多い場所
・積累の多い場所
●熱交換器に直接ファン吹き出し風が当たる場所には設置しない。
●吹き出し風による積層等への故障の原因になります。
●熱交換器・食品・動物・薬品・美品の保存庫等に設置しない。
●保存物の品質低下等の原因になります。
- 病院、通達事務所などの電磁波・高周波が発生する機器の近くでは使用しない。
●エアコンの誤作動や故障の原因になります。エアコン側は医療機器あるいは通信機器に影響を与え、医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや誤作動の原因になります。
- 室内機の下部や周囲には、濡れて困るものは置かない。
●湿度80%以上のときやドレン排水が詰まった場合に、室内機本体から露が滴下し損傷が生じる恐れがあります。
- 室外機・室内機の上部は、雨や雪に濡れないように注意する。
●落下物により物が破損したり、ケガの原因となります。
- 室外機・室内機の上に乗らない。
●雨下、転倒によりけがの原因になります。
- 室内機・室外機を水洗いしない。
●感電の原因になります。
- 据付台が腐んで状態が悪化する原因になります。
●ユニットの落下・転倒につながる、ケガ等の原因となります。
- パネルやガードを外した状態で運転しない。
●熱交換器の回転、高周波電磁波に接触すると、巻き込まれたり、やけどや感電などによるケガの原因になります。
- フィルターを外したまま運転しない。
●内部に油・ゴミ等が詰まり、故障の原因となります。
- 電気の工事・メンテナンスは専門業者に依頼する。
●運転中の冷媒配管を素手で触れない。
●運転中の冷媒配管は濡れる状態になり、低温と高温になります。素手で触ると凍傷や、やけどになる恐れがあります。
- 運転後、必ず5分ほど待機し、水漏れや故障の原因になります。

- 冷媒R410A対応機としての注意点
- R410A以外の冷媒を使用しないでください。R410Aは従来の冷媒（R22、R407C）に比べ圧力が約1.6倍高いです。
 - R410Aはホッパ上部に黄色の表示があります。
 - R410A機は、他の冷媒の漏れ防止のための室外機操作弁のチェックジョイントとユニット内のチェックジョイント種を変更しています。又、圧縮機をよけるため冷媒配管のフレア加工寸法及びフレアナットの対応寸法を変更しています。従って、施工・サービス時には右表に示すR410A専用ツールを準備してください。
 - チャージシリンダは使用しないでください。チャージシリンダを使用すると冷媒の組成が変化し、能力不足等の原因になります。
 - 冷媒封入は必ず液相で取り出してください。

①据付のまえに

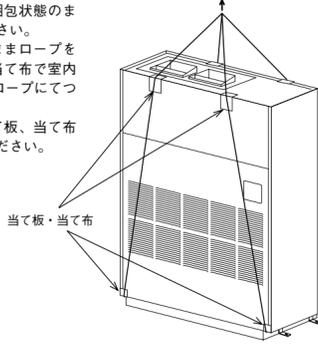
- ▶据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
- ▶まず下記項目を確認してください。
 - 機種・電源仕様 ●配管・配線・小部品 ●付属品

〈付属品〉 付属品はインレットグリルを開けたユニット内にあります。

1	据付説明書（本書）	1
2	取扱説明書	1
3	保証書	1
4	パイプ	1
5	継手（大）	1
6	継手（小）	1
7	グロメット（大）	1
8	グロメット（小）	2

②運搬・搬入

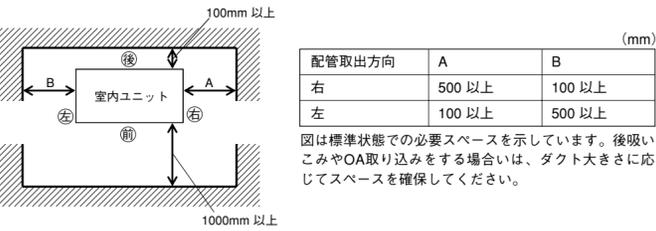
- 搬入経路を決めて、出来るだけ梱包状態のまま据付位置近くまで搬入してください。
- 吊り上げる場合は、梱包状態のままロープをかけるか、図のように当て板・当て布で室内機を傷つけないよう保護し、2本ロープにてつり上げてください。
- ユニットとロープの接触面は当て板、当て布を沿えて傷つけないようにしてください。



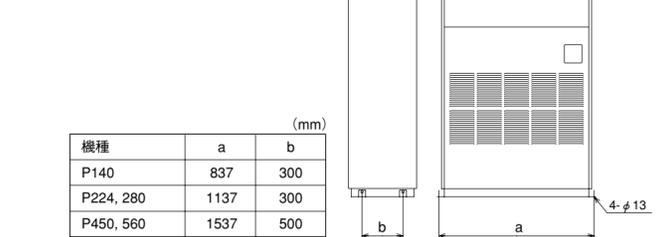
③据付場所の選定と据付

- 据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
 - 冷風または温風が十分に行きわたる所。
 - 据付・サービス時の作業スペースが確保出来る所。
 - ドレン排水が確実に出来る所。ドレン勾配のとれる所。
 - 吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。
 - 直射日光の当たらない所。
 - 浸入外気の影響のない所。
 - 直射日光の当たらない所。
 - 周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。
- 本ユニットはJIS露点条件にて試験を行い、問題のないことを確認しておりますが、室内機周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態では運転すると水滴が落下するおそれがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内機本体の全て及び配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取り付けてください。
- テレビ、ラジオより1m以上離れた所。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）
- 調理器具が発する熱の影響を受けない所。
- 油・粉・蒸気等を直接吸い込まない所。
- ユニットの上に物を置かないようにしてください。

 - 据付けようとする場所はユニット重量に耐えることができ、水平な場所としてください。危険と思われるら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。
 - 点検メンテナンスのためのスペースを確保してください。



- 固定金具と床面を固定してください。固定ボルトの位置は下図のようになってます。



④プリー・ベルト交換要領

プリー・ベルトを変更することで風量・機外静圧を調整することが可能です。プリー・ベルトを変更する場合は以下の手順で変更してください。プリーは重量物ですので扱いに注意してください。

- インレットグリルを外してください。
- フロントパネル(上)を外してください。
- 工具の落下などにより熱交換器を傷つけることを防止するため、十分に強度のある鉄板やベニヤ板などを熱交換器の上に置いてください。
- モーターベースが可動できるよう、ボルトA、ナットAをゆるめてください。
- ナットBをゆるめて、モーターベースを上（⇒印）方向へ動かし、プリー間距離を縮めてベルトを取り外してください。この際、プリー間距離を縮めず、無理に棒などを差し込んでベルトを取り外すことはやめてください。
- ファンプリー・モータープリーの止めねじをゆるめてプリーを取り外してください。
- 交換するプリーに付け替えてください。プリーの傾きは下図のようにしてください。止めねじは緩み止め剤を塗布の上、シャフトのキー・Dカット部で止めてください。
- ベルトをかけ、ナットBを締めモーターベースを下（⇒印）方向へ動かしてベルトを張ります。
Vベルト1本当たりの張力（張り具合）はたわみ量Lの値を①式にて計算し、その時のたわみ荷重が下表①の範囲となるようにセッティングしてください。
- ボルトA、ナットAを締め付けて固定してください。P140の場合は、ステイ部のボルトCを締め付けてください。

- ベルト張力は下記のようにしてください。

表① ベルトはレッド仕様をご使用ください。

Vベルト種類	モーター径 (mm)	ベルト1本当たりのたわみ荷重W (N/本)
A形	65～80	11～14
	81～90	13～17
	91～105	16～20
	106～	19～24
B形	115～135	22～28
	136～160	26～33
	161～	28～36

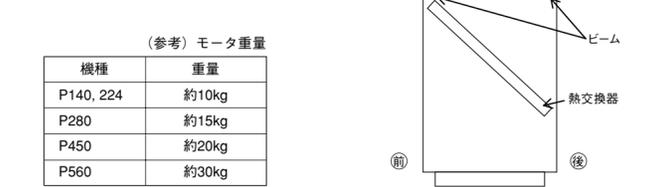
① $L = 0.016 \times C$

C: プリーの軸間距離 (mm)

- プリーの傾き
プリー同士の傾き（平行度、偏心度）はθ < 1/3°以下となるようにしてください。

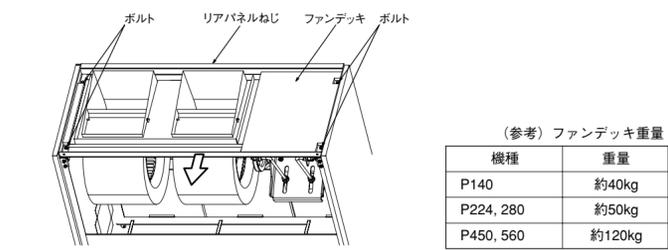
- モータの交換
モータは重量物ですので扱いに注意してください。

- モータ交換をする場合は、図のように室内機前後にあるビームに桁をかけて、その上に台を置き、モータを支えて交換してください。

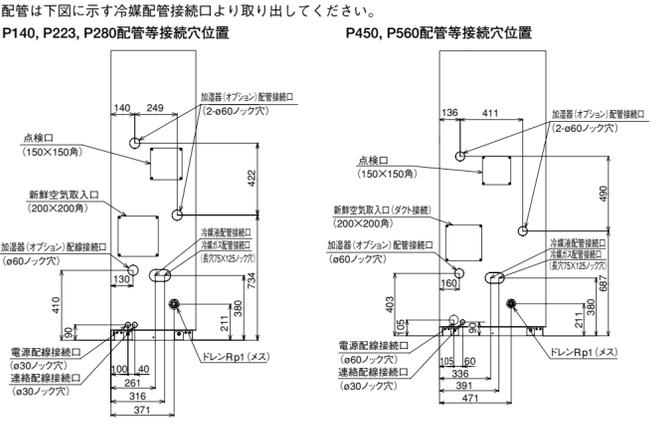


- ファンの交換する場合は、ファンデッキを本体から取り外して作業してください。ファンデッキを取り外すには、上部ボルトとリアパネル上部のねじを取り外す必要があります。

- △ 重量物のため扱いに注意する。
P280以下は、二人以上で作業してください。
P450, P560は、クレーン・ハンドリフトなどを利用して作業してください。



⑤冷媒配管工事



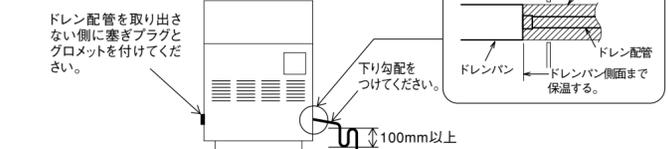
冷媒配管工事時の注意事項

- ガス管固定用のダンボールは取り外してください。（P450, 560のみ）
- 配管は下記材質のものをご使用ください。
（材質）ステンレス鋼製無銅管
●φ15.88以下：JIS H3300、φ19.05以上：C1220T-1/2、JIS H3300
- 配管の曲げは出来るだけ大きな半径（配管径の4倍以上）で行ってください。
- 配管の曲げ直しを何回も行わないでください。
- 配管は、ねじったり、つぶしたりしないでください。
- 配管内はゴミ・切粉・水分が混入しないように施工してください。
- エアフィルタを取り外してください。ろう付けの火災が当たるとフィルタを溶かしてしまいます。
- ドレンパン・樹脂部品・断熱材・膨張弁にろう付けの火災が当たらぬよう、当て板などを設置してください。
- ガス管・液管の管端部のつぶし配管を取り外してください。
- 付属の継手、配管を使って、図のように配管を接続してください。
- 冷媒配管は室内機内部の継手となりなるよう勾配をつけてください。
室内機外側に下り勾配が付いていると、室内機内部で発生した結露水が室内機外側に漏れ出す原因となります。
- ろう付けは必ず窒素ガスを流しながら行ってください。
窒素ガスを流さないで多量の異物（酸化被膜）が生成され、キャピラリーチューブ又は膨張弁詰まりによる致命的故障の原因となります。



- ガス側配管・液側配管ともに断熱を行ってください。断熱材厚さは20mm以上としてください。
- 断熱はユニット内部の継手まで行ってください。
- 配管取り出し部より埃・小動物の侵入を防ぐため、パテなど（現地手配）で配管取り出し口の隙間を埋めてください。

⑥ドレン配管工事



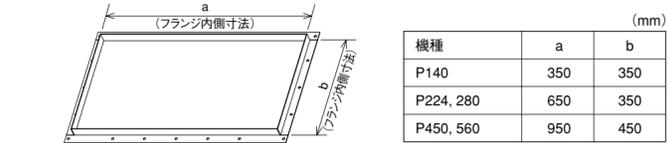
- ドレン配管は必ず保温してください。保温は室内機内のドレンパン側面のソケット部まで行ってください。
- 配管工事に不備があると、水漏らし家財等を濡らす原因となります。
- ドレン配管を接続する場合、室内機側の配管に力を加えないように注意して行い、出来る限り室内機近傍で配管を固定してください。
- ドレン配管は、室内機外側に下り勾配（1/50～1/100）とし、100mm以上の水封が作れるトラップを設けてください。（臭気止め、逆流防止の為）
- ドレン配管を取り出さない側のドレン接続口に塞ぎプラグを取り付けて、塞ぎプラグ表面を保温してください。その後、外板下にグロメットを取り付けてください。
- 配管施工後、排水が良好に行われていることと、水漏れのないことをご確認ください。
- ドレン配管の出口は臭気の発生する恐れのない場所に施工してください。
- ドレンパンは定期的に清掃してください。
- ドレン配管サイズは途中で細くしないでください。またドレン配管が集合する場合は十分な大きさとしてください。

△ 警告

ドレン配管は、硫黄系ガス等有害ガス及び可燃性ガスの発生する排水溝に直接入れない。
室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。

⑦ダクト工事

- ダクト接続
 - 図に示すダクトフランジが室内機上部に取り付けられています。接続するダクトに合わせて、側面に穴をあけて接続してください。
 - 室内機とダクト・ダクトのサポーター等は必要に応じて防振キャンバス、防振ゴム等により接続・支持し振動の伝播及び騒音の増幅等にならないよう施工してください。
 - ダクト接続後、ダクトフランジが露出している部分は断熱を施してください。



⑧電気配線工事

電気配線工事は電気設備技術基準及び、内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

警告

- 配線は所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないよう固定する。接続や固定が不十分な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- 電気工事は、電気工事士の資格が有る方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程JEA8001(最新のもの)」及びこの据付説明書に従って施工してください。
- 電源は専用回路とし、かつ定格の電圧、漏電しゃ断機を使用する。電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災等の原因になります。

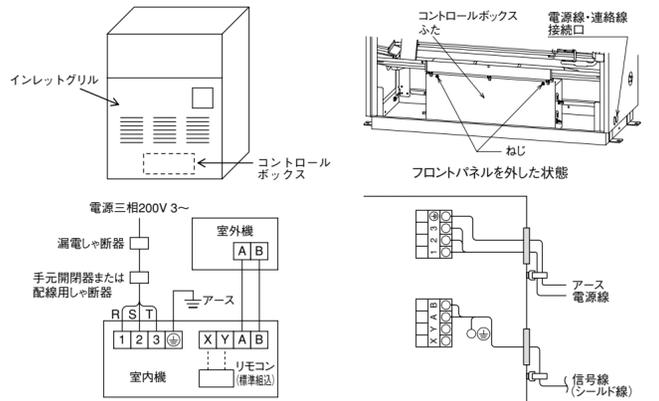
注意

- 漏電しゃ断機を設置ください。感電、火災事故防止のため漏電しゃ断機を設置が義務づけられています。漏電しゃ断機が取付けられていないと火災や感電の原因になります。
- アース工事を行う。アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。ガス管にアースすると、ガス漏れの時に爆発、引火の可能性があります。アース(接地)が不十分な場合は、故障や漏電のとき火災や感電の原因になります。
- 信号用端子台に200Vを接続しないでください。
- 電源は工事が完了するまで入れないでください。

- 電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。
- 1) 電線は銅線以外のものを使用しないでください。
- 2) 電源は、室外機・室内機それぞれ別電源としてください。
- 3) 電気ヒータ(別売品)は含んでおりません。
注) 電気ヒータを組み込む場合は、電源仕様・配線仕様および配線本数が異なりますのでご注意ください。
- 4) 信号線用端子台に電源線を接続しないでください。
電源線の接続を間違えすと、基板が焼損してしまいます。

⑨電源・室内外接続線

コントロールボックスはインレットグリルを外したユニット下部にあります。
コントロールボックスのふたを外し、電源線・アース・信号線を接続してください。



電源仕様

室内機	漏電しゃ断器(地落、過負荷、短絡保護兼用)	ヒューズ付分閉器(A)					
標準タイプ(ASVP-H)	オールフレッシュタイプ(ASVP-F)	定格電流(A)	感度電流(mA)	動作時間(sec)	分閉器容量	過電流しゃ断器(2極ヒューズ容量)	配線用しゃ断器(A)
P140,P224,P280	P140,P224,P280	15		0.1以下	15	15	15
P450	P450,P560	20	30		30	20	20
P560		30				30	30

- 漏電しゃ断器を使用する場合は、地落・過負荷・短絡保護兼用タイプを使用してください。
- 地落保護専用のものを選定する場合は、ヒューズ付き分閉器または配線用しゃ断器を組み合わせて使用してください。

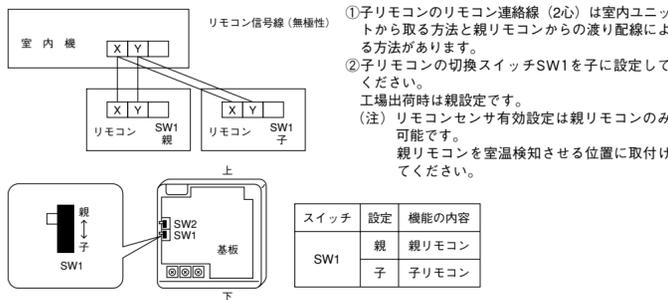
配線仕様

室内機	電源用配線太さ(mm ²)	配線こう長(m)	信号線太さ(mm ²)	アース線太さ(mm ²)
標準タイプ(ASVP-H)	オールフレッシュタイプ(ASVP-F)			
P140,P224	P140,P224,P280	2.0	38	2.0
P280		2.0	21	2.0
P450	P450,P560	3.5	27	3.5
P560		5.5	23	5.5

- 電気配線は、「5冷媒配管工事」配管等接続穴位置図の電源線・連絡線接続口より外板を貫通して取り出してください。
- 外板貫通部は、配線保護と埃・小動物の侵入を防ぐため、付属のゴム製グロメットを取り付けてください。グロメットはカッターナイフ等で切り込みを入れて配線を通してください。
※グロメットは機種により、(大)または(小)のいずれか1個余ります。

⑩リモコン

室内機1台に対して標準組込以外に1個までリモコンを接続できます。



⑪アドレス設定

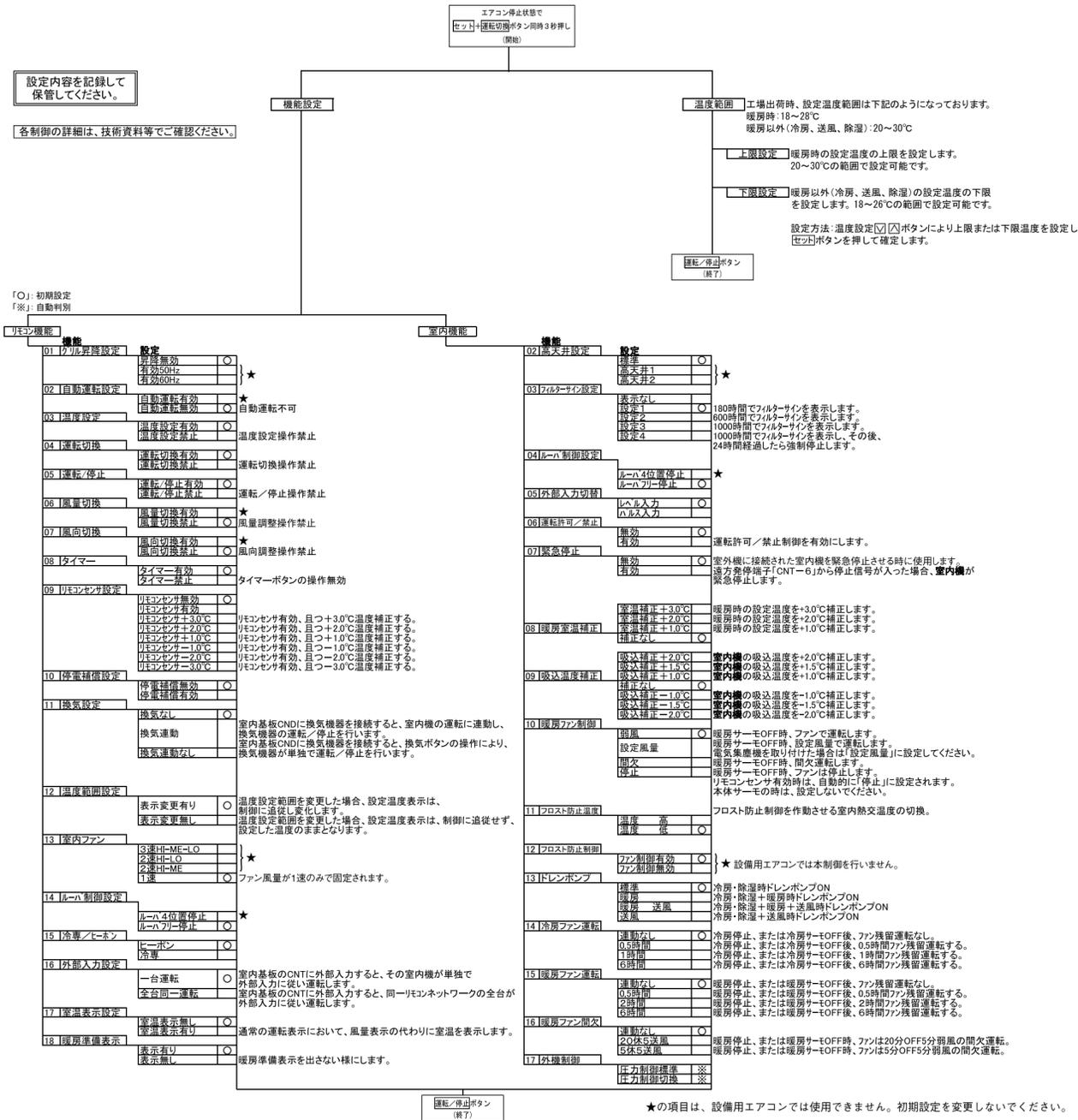
- アドレス設定は、(1)手動アドレス設定 (2)自動アドレス設定の2つの設定方法ができます。上記2項目については、室外機の据付説明書をご覧ください。
- アドレス設定は室外機据付説明書を参照してください。16馬力(P450形)、20馬力(P560形)はコントロール基板を2枚搭載していますので、手動設定の場合は各々異なるアドレスを割り振ってください。

⑫機能設定

- リモコンと室内機の各機能は、リモコンと室内機を接続した際に、標準的な使い方で初期設定に自動的に設定されます。標準的な使い方をする場合は、設定の変更は不要です。但し、「○」印の初期設定を変更したい場合は、その機能番号の項目のみ、設定を変更してください。

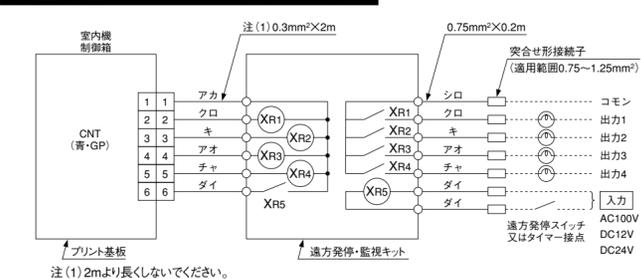
[機能設定のながれ]

開始: エアコン停止状態で「**セット**」+「**運転/停止**」ボタン同時3秒押し
確定: 「**セット**」ボタンを押す
戻る: 「**リセット**」ボタンを押す
選択: 「**▲**」/「**▼**」ボタンを押す
終了: 「**運転/停止**」ボタンを押す
(設定の途中で終了しますが、設定が完了していないものは無効になります。)



★の項目は、設備用エアコンでは使用できません。初期設定を変更しないでください。

⑬室内基板CNTコネクタの機能



注(1) 2mより長くないでください。

- XR1~4はDC12Vリレー (オムロンLY2F相当品)
- XR5は、DC12V、24V又はAC100Vリレー (オムロン製LY2F相当品)
- CNTコネクタ (現地側) メーカー、形式

コネクタ	モレックス	5264-06
端子	モレックス	5263T

機能

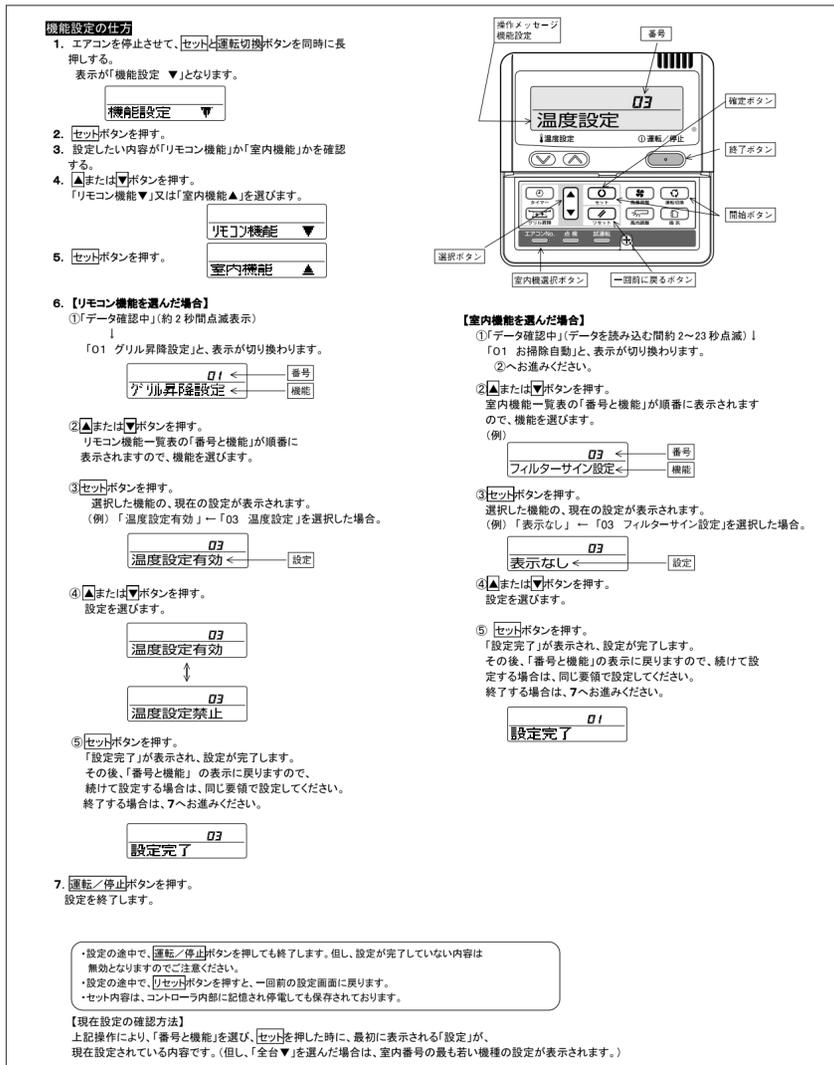
出力1	エアコン運転出力 (エアコンON時XR1=ON)
出力2	暖房出力
出力3	サーモON出力 (サーモON時XR3=ON)
出力4	エアコン点検出力 (エアコン点検時XR4=ON)
入力5	出 荷 時 XR5 OFF ⇒ ON エアコンON XR5 ON ⇒ OFF エアコンOFF
	現 地 切 換 (リモコンにより外部入力切換を設定)
	XR5 OFF ⇒ ON のパルス信号によりON/OFF反転

- 遠方発停・監視キットを別売品で準備しておりますのでご利用ください。

P450, 560タイプの場合

P450, 560タイプは室内基板を2枚装備しております。
出力4を除き、「9機能設定」のリモコン機能で「16外部入力設定」を「全台同一運転」に設定することで、CNTコネクタはどちらか片方(どちらでも可)のみ外部利用可能です。
出力4は、それぞれの基板より出力を取り出してください。

PAA012D006A



⑭冷房試運転

冷房試運転方法

- リモコンを次の手順で操作してください。
- 1. 冷房試運転の開始
- ① 「**運転/停止**」ボタンを押して、運転します。
- ② 「**運転/停止**」ボタンにより、「冷房」を選択します。
- ③ 「**試運転**」ボタンを3秒以上押しします。
- ④ 「冷房試運転」の表示で、「**セット**」ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。表示は、「冷房試運転」となります。
- 2. 冷房試運転の解除
- 下記のいずれかの操作が行われた時、冷房試運転は解除され、「冷房試運転」表示は消灯します。
- ① 「**運転/停止**」ボタンを押された時。
- ② 「**温度設定**」ボタンを押された時。
- ③ 「**運転/停止**」ボタンにより冷房以外のモードに変えた時。

運転データの確認方法

- リモコン操作により、運転データの確認ができます。
- [操作手順]
- 1. 「**点検**」ボタンを押します。表示が「運転データ表示」▼)となります。
- 2. 「運転データ表示」▼)の表示で、「**セット**」ボタンを押します。
- 3. リモコンに接続されている室内ユニットが1台の場合、「データ確認中」表示となり、(データを読み込む間点滅表示) その後、運転データの01番が表示されます。7番へお進みください。
- 4. リモコンに接続されている室内ユニットが複数台の場合、接続されている室内ユニットの中で、最も小さい室内アドレスが表示されます。例)「室内機選択」(1秒間点滅)「内000」(点滅)
- 5. 「**▲**」/「**▼**」ボタンで、表示したい室内アドレスを選びます。
- 6. 「**セット**」により確定します。(室内アドレスが点滅から点灯に変わります。例)「内001」(選択した室内アドレスを2秒間点滅)
- ↓
- 「データ確認中」(データを読み込む間点滅表示) その後、運転データの01番が表示されます。
- 7. 「**▲**」/「**▼**」ボタンにより、現在の運転データを確認できます。
※機種により該当するデータがないものは、その項目は表示されません。
- 8. 室内ユニットを変更する場合は、「**エアコンNo.**」ボタンを押すことにより、室内ユニット選択表示に戻ります。
- 9. 「**運転/停止**」ボタンを押すと、終了します。

設定の途中で、「**リセット**」ボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。

○運転データの確認は、リモコン2台で室内機を運転する場合、親リモコンのみ操作可能です。(子リモコンからの操作はできません。)